

震災から4日たった平成23年3月15日の朝、災害医療支援の依頼が当院にきた。直ちに、当日勤務していた看護師長、副看護師長を含む看護師4名と研修医2名のチームを結成した。そして、ワゴン車の荷台に積めるだけの医療物資と食料を詰め込んで、その日の午後2時には病院を出発した。依頼内容は、津波の被害を受けて診療ができなくなったいわき病院の患者37名を、国立病院機構水戸医療センターが受け入れるための看護支援と救急外来での診療支援だった。

いわき病院は、政策医療分野における重症心身障がい専門医療施設で、神経・筋疾患（神経難病）に対する医療も行っている病床数100床の病院である。平常時は海が展望できる静かな病院だが、3月11日の震災では、外来から2階の病棟部分までが津波にのまれ、救援を待っている状態だった。そこで、水戸医療センターを含む近隣の病院に、入院患者を転院搬送することになった。しかし、いわき病院のほとんどの患者は一人で歩くことができず、寝たきりの患者が多い。そのため、救急車とおむつや衣類を敷き詰めたマイクローバスに患者を寝かせ、3回に分けて15日の昼から翌朝までかかり移動してきた。

私たちは、15日の夕方5時過ぎに水戸医療センターに到着し、他施設からの支援スタッフと共に、簡単なオリエンテーションと夕食を済ませた後、到着患者受付・仮設病棟・救急外来の3か所に分かれて活動を開始した。患者受付では、福島第一原発の事故による被曝の可能性があるため、到着した患者一人ずつの被曝量チェックを行い、安全を確認してから病院内に案内するよう

になつており、放射能汚染の怖さを身近に体験することとなった。一緒に付き添ってきたいわき病院の医師・看護師・理学療法士のスタッフは、震災の日から自宅に帰ることもできず、不眠不休の状態での診療に当たっていた。また、水戸医療センターのスタッフも、被災者の受入れのために奔走していた。私たちは、少しでも彼らにゆつくりと休んでもらえるように、4日間という短い期間ではあったが、患者を引き継ぎ、交代で診療援助を行った。

水戸に滞在していた期間、地下水を利用しての病院以外は断水状態で、1日に何回も震度4クラスの余震があり、「亀裂の入った壁が崩れてきたら」、「突然真っ暗になったら」、「帰り路が閉鎖されたら」など、いろいろな不安が頭をよぎった。入院している患者も、余震がくるたびに悲鳴を上げたり、布団をかぶったりする姿が見られた。これから先、被災した人たちはこのような状況の中、いつまで続くかわからない不安を抱えながら日々を過ごすのかと思うと胸が詰まった。そして、「災害時に自分たちにはできることは何か」、「何をしなければならぬのか」ということを考えずにはいられなかった。

そして、11月に入り、今度は福島第一原発の事故に伴う住民の一時帰宅時の医療班を派遣することになった。今回は、医師1名、看護師1名、事務員1名のチームで11月22日と23日の2日間、約700世帯、1,700人の一時帰宅者のための救護室業務を行った。中継基地となる広野町中央体育館には、内閣府・経済産業省・厚生労働省・県警・自衛隊・東電など、各部署から派遣されたスタッフそれぞれに就いていた。その中で、私たちは、救護室（体育館に隣接

する公民館の一室）の前に立ったり、立入準備所を見回ったりして住民の様子を観察していた。夏場は、熱中症や虫さされ、動物による咬創（噛まれた怪我）などが発生していたとのことだったが、今回は気候的に良かったのか、喘息発作や風邪程度で、大きな事故も傷病者も発生することなく2日間が終了した。

現場では、事務室の日めくりカレンダーが3月11日のままであったり、おそらく緊急避難の際に残して逃げたのだろうと思われる子どもの靴が置いてあったりと、地震発生時の状況を物語る事象が垣間見えた。また、行き帰りの海岸に面したところでは、更地となった住宅地や、一部損壊しながらも営業している海の家、壁に修復可能かどうかの〇×を付けた住宅など、震災・津波の深い爪痕を認めたが、道路はかなり整備されていた。宿泊地のいわき市では活気が戻っており、福島県が風評被害に負けることなく復興を早く遂げて欲しいと切に思った。

今年の2月8日に、当院で大規模な震災が起こったことを想定した災害訓練が行われ、多くの職員が参加した。もし、東日本大震災のような大規模な震災が私たちの地区でも起こったときには、災害拠点病院現時点ではまた災害拠点病院にはなっていないが、今後、正式に災害拠点病院となるように準備を進めているところである」として、地域住民を守り続ける心積もりであることを、参加した職員全てが訓練を通じて強く意識付けられたところである。今後、地域の健康と安心を守り続ける気持ちで日々の業務に従事していきたいと考えている。

わたしたちの健康

日曜・休日に実施している医療機関

午前10時～午後4時

月日	場所	施設名	科目	☎(048)	場所	施設名	科目	☎(048)
4	1	和光 宇野小児科医院	小	465-8888	新座 田中医院	内・外・循内・消内	477-3536	
	8	朝霞 朝霞駅東口たんば内科クリニック	内・消内	450-2211	朝霞 さない耳鼻科クリニック	耳	450-3710	
	15	朝霞 ひろせこどもクリニック	小・アレ・内	460-2900	和光 勝海外科	外・消内・整外・皮・内・呼内	464-2685	
	22	朝霞 阿部産婦人科医院阿部レディースクリニック	産・婦・内	465-8118	朝霞 大城胃腸科外科医院	消内・外・皮	463-1575	
	29	新座 庄林医院	内・外・消内	477-3357	朝霞 増田耳鼻咽喉科医院	耳・気・アレ	463-9218	
	30	朝霞 富岡医院	内・循内・小	461-7581	新座 新座むさし野クリニック	内・アレ・循内	489-5323	



※当番医は変更になる場合もあります。確認してからお出かけください。